

# HIVとAIDS(エイズ)

## 県感染症情報センター

### 声なき感染症を知る

◆80◆

世界保健機関(WHO)は1998年、AIDS(エイズ)に関する正しい知識等についての啓発活動を推進し、感染者に対する差別・偏見の解消等を図ることを目的に、12月1日を「世界エイズデー」に制定しました。今回は、HIV(エイチ・アイ・ブイ)およびエイズを取り巻くさまざまな問題や変化しつつある予防、治療の現状についてお話しします。

▽HIVとエイズは異なる  
HIVとエイズというしばしば混同されがちなのこの二つの言葉について説明します。HIVは「human immunodeficiency virus(ヒューマン・イミュノディフィレンシー・ウイルス)」、エイズ(AIDS)は「acquired immunodeficiency syndrome(アクワイアード・イミュノディフィシエンシー・シンドローム)」の略語です。

HIVは日本語では「ヒト免疫不全ウイルス」といい、体内に入ると人の免疫細胞に感染し破壊することで、感染した人はさまざまな病原体に対する抵抗力が低下します。そして、日和見感染(健康な人では問題とならないような細菌、ウイルス、真菌ヘカビ)などの病原体に感染し、特にエイズ指標疾患と指定されて

いる疾患のいずれかを発症した場合に、エイズ発症とされます。つまり、HIVはウイルスの名称、エイズは病気の名称です。  
また、HIVに感染してもすぐに免疫不全状態になるわけではありません。感染してすぐは風邪のような症状だった

世界で初めてエイズの患者が確認されたのは1981年のアメリカです。当時は原因が不明であり、治療も確立していなかったため「エイズ=死の病」と考えられていました。また、HIVとエイズについて正しい知識や理解がないことにより偏見や差別もありました。  
以前はHIVの治療薬の副作用が多かったですが、現在ではきちんと薬を飲み続ければ完治はしませんが普通の生活を送ることができ、感染者の平均余命は今では非感染者とほぼ変わらないという研

母子感染がありますが、大半は性行為感染です。唾液や手に付着しているわけではないので、食事や握手などで感染することはありません。  
HIV感染の予防にはコンドームの使用が有効ですが、海外の一部の国では不特定多数とコンドームなしの性交渉をする人など感染リスクが高い人を対象として曝露前の抗ウイルス薬予防内服(pre-exposure prophylaxis)「プレ・エクスプोजィヤープロフィラキシス」(PrEP)「プレッブ」を導入しており、感染予防効果もあり、感染して一生治療薬を内服するより経済的であるという報告があります。

## 予防と早期発見が鍵 治療すれば感染しない

り、数年は無症状であったりします。エイズ発症までは感染してから数年程度かかるかとされています。  
▽エイズは今や死の病でない

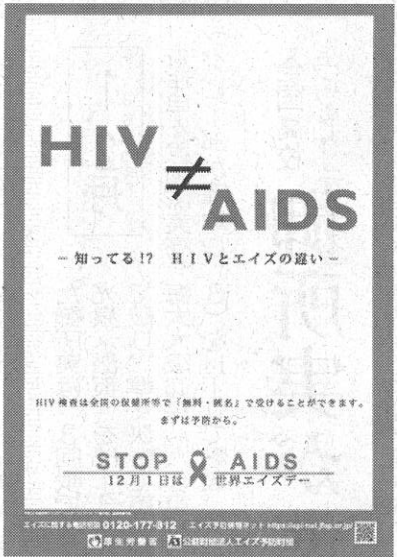
究報告があります。また、治療をつづけて血液検査で体内のウイルスが見つからないレベルになればセックスをしても他人への感染はほぼありません。

一方、PrEPでは梅毒や淋菌などの他の性感染症の予防にはならないので、これらの性感染症が増えるのではないかと懸念があり、自分とパートナーを守るためにも、セックスの時にはコンドームを正しく使うことが大切です。

### ▽感染経路の大半は性行為感染

HIV感染の早期発見が重要です。エイズを発症して初めてHIV感染に気づく「いきなりエイズ」を防ぐためには、HIV感染の早期発見が重要です。

HIVは感染者の血液、精液、膣分泌液、母乳に含まれているため、感染経路としては性行為、感染、血液感染、検査を勧めましょう。



ヤ省日11のHIVに関する知識を啓発している